

平成26年度第2回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成26年度第2回木更津市史編集委員会

2. 開催日時 平成26年8月5日(火) 午後2時00分～4時00分

3. 開催場所 木更津市役所6階委員会室

4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名

金子馨委員長、三浦茂一副委員長、成田篤彦副委員長、池田忍委員

島立理子委員、川戸貴史委員、石井良幸委員、堀切由彦委員

教育委員会事務局6名

初谷教育長、鹿間教育部長、齊藤教育部次長、今関文化課長、

小高副主幹、中能副主幹、寺原主事

5. 議題及び公開又は非公開の別

報告1 平成26年度第1回木更津市史編集委員会議事内容(公開)

報告2 公開講座「盤洲干潟のいきものたち」開催結果(公開)

報告3 調査・研究の進捗状況(公開)

議題1 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定(公開)

(1) 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)について

(2) 『木更津市史』通史編刊行内容について

(3) 『(仮)木更津市史研究』編集方針について

議題2 木更津市史編集事業公開講座の実施(公開)

(1) 次回の公開講座の内容について

(2) 実施回数および時期について

(3) 公開講座記録集の編集・発行について

議題3 木更津市史編集部会の設置(公開)

(1) 市史編集部会設置に関する規定(案)について

(2) 部会委員候補者の選定(推薦)

その他(公開)

(非公開の理由)

6. 傍聴人 なし

事務局(今関文化課長)

定刻となりましたので、ただ今から平成26年度第2回木更津市史編集委員会を開会いたします。本日の進行を務めます文化課の今関でございます。よろしくお願いたします。

本日の市史編集委員会は、梶山委員、實形委員から都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告いたします。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により成立しております。また、会議は公開で行いますのでご了承下さい。はじめに、初谷教育長よりご挨拶申し上げます。

初谷教育長 8月に入り連日猛暑の中、本日の木更津市史編集委員会にお集まりいただきありがとうございます。後ほど担当から報告予定されておりますが、7月27日に、この市史編集委員会の中で論議されて新しく事業としてスタートした公開講座は、成田副委員長はじめ関係する先生方からご講演いただき大変盛会におわることができました。ありがとうございました。

今日の委員会の中では、第1回の成功を受け2回以降の公開講座につきましてご審議いただきたい。また、その前段として『木更津市史』編集基本構想及び基本方針については、数度にわたってご協議いただいておりますので、そろそろ形にしていいただければと願っております。その他、次第に記された報告と議題について、ご審議いただきたいのでよろしく申し上げます。

事務局（今関文化課長）

金子委員長より、ご挨拶をたまわりたいと存じます。

金子委員長 「うだるような暑さ」という言葉もありますが、大変な猛暑の中をご出席いただきありがとうございます。海水の温度が1・2度上がっただけで異常気象を起こしているようですし、海の生き物たちにしても水温の変化は生態系に大きな影響を与えております。それは自然の大きな力と思いますが、人間も多少は加担しているように感じます。

今日の議題の中心は、数回にわたって『木更津市史』編集基本構想及び基本方針について検討しておりまして、どうやら形が整ってきたように思います。また関連して木更津市史編集事業の活動について議題になっておりますので、よろしく申し上げます。

事務局（今関文化課長）

ありがとうございました。次に、7月1日付け定期人事異動により、教育委員会におきましても鹿間教育部長が就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

鹿間部長 7月1日付けで教育部長に就任しました。教育部は初めてですが、平成24年度の市制施行70周年記念のため『図説 木更津のあゆみ』を刊行したときに、企画部次長兼課長として木更津市史編集委員会委員をやらさせていただき、金子委員長をはじめ市史編集委員会委員の皆様とご一緒させていただいており

ます。今後ともよろしく申し上げます。

事務局（今関文化課長）

会議に入る前に、資料確認をお願いします。本日の編集委員会次第、出席者名簿、席次表、報告事項として1から3ページまで、議題として4から17ページまで、市史編集委員会日程を18ページに載せております。また別添に公開講座の資料をご用意しております。抜けているページは、ありませんでしょうか。

それでは議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、これからの議事進行を、金子委員長にお願いいたします。

金子委員長 これより議長を務めさせていただきます。本日は、報告事項と協議事項、それぞれ3号ずつ事務局から提出されております。はじめに、報告事項について事務局より第1号から第3号まで一括して説明願います。

事務局（今関文化課長）

報告第1号といたしまして、今年度第1回木更津市史編集委員会の議事結果についてご報告いたします。第1回目の市史編集委員会では、『図説 木更津のあゆみ』の活用として公開講座の開催と、継続協議中の『木更津市史』編集基本構想及び基本方針（案）についてご協議いただきました。

委員の皆様から出された主な意見と事務局からの回答内容は、資料1・2ページのとおりです。このうち、市史の編集基本構想及び基本方針（案）の中で、市史編集組織事務局（案）はご了承いただきました。また編集基本構想及び基本方針は一部見直しの意見がでましたので、本日の議題で後ほどご協議いただく予定でございます。

なお、第1回市史編集委員会の詳細につきましては、会議録として市のホームページで公開しております。会議録のご希望があれば、委員会終了後に事務局までお申し出ください。

報告第2号といたしまして、先月27日の日曜日に木更津市民会館小ホールにおきまして木更津市史編集事業公開講座「盤洲干潟のいきものたち」を開催いたしました。詳細を小高総括から報告いたします。

事務局（小高副主幹）

それでは、ご報告いたします。公開講座にご参加いただいた委員もおられますが、参考として当日の資料を用意いたしました。

公開講座「盤洲干潟のいきものたち」には、事前と当日申込みをあわせて60名の方々がお越しくださいました。また、小学生や高校生などの児童・生徒か

ら、ご高齢の方々までと幅広い年齢層の方がお越しくださり、木更津市史の編集方針の一つの「広く市民に親しまれ、まちづくりや生涯学習、学校教育等で活用される」ことになったものであります。

講師の方々には、参考資料の1枚目の裏側に書いてあるとおり千葉県生物多様性センターの高山順子さん、成田副委員長、木更津市史調査・研究員の藤平さん、田村さん、小倉さんの5人をお願いしました。

公開講座は、途中で休憩をはさみ前半は干潟の成り立ちや干潟に生息する植物、動物についてを、それぞれ10分から20分程度でパワーポイントで写真を見せながら行い、後半はそのまとめも含めながら盤洲干潟の重要性についてお話いただきました。また高山さんの専門がカニ類ということで、今年5月の新聞で報道されました新種のカニ「バンズマメガニ」と、『図説 木更津のあゆみ』にも掲載した「ハクセンシオマネキ」についてもお話くださいました。

ただ、講座の資料や話の内容を、事務局から事前に中学生や盤洲干潟について全く知らない人でもわかるようにと、講師の方々をお願いしておりましたので、参加された方の中には物足りなく感じていた方もおいででした。

公開講座の周知活動についても、会場が木更津市民会館小ホールということもあり定員に限りがありましたので、報道関係にも投げかけておりませんでしたので、周知活動について課題が残るものとなりました。私からは、以上でございます。

事務局（今関文化課長）

報告第3号といたしまして、今年度も成田副委員長、三浦副委員長、実形委員を中心に自然に関する調査と、図書館と郷土博物館金のすずにおきまして旧役場文書や請西藩林家関係資料の調査を行っております。実施日は、資料3ページのとおりですが、調査状況について成田副委員長、三浦副委員長よりご報告をお願いいたします。

金子委員長　それでは、事務局から調査報告とありましたので、最初に成田副委員長ご報告願います。

成田副委員長　ほとんどの調査は、昨年度の会議で報告したとおりです。その後は、いっせんぼく周辺の調査を行いました。前回の調査では、モリアオガエルの鳴き声はしたけれども卵塊を見つけることは出来ませんでした。今回の調査では卵塊を2つ見つけることが出来ました。おそらく房総半島では一番北部の分布域にあたると思います。少しずつ木更津市の中にモリアオガエルが進入しつつあるという状況が段々わかってきました。

その他については、アカボシゴマダラという外来種が太田山公園で見つかっています。2000年位から神奈川県などで見つかり、それは飼育されていた蝶で放蝶されたものから広がってきたらしい。4～5年前から船橋市や富津市でも見つかっていたのですが、木更津市ではこれまで見つかっていませんでした。去年から木更津市でも見つかり、今年は大量に見つかっています。こういったことが調査でわかってきています。

金子委員長 ありがとうございます。つづきまして、本日は実形委員が欠席ですので三浦副委員長、図書館と博物館での調査についてまとめてご報告ください。

三浦副委員長 郷土博物館金のすずでの調査は、(請西藩林家)史料の7割位の仮目録作りが終わりました。今後は、目録の入力や、史料撮影を行う予定です。図書館では、旧中郷村と旧鎌足村の役場文書の仮目録作りと目録の入力、史料の袋詰めを同時に進めています。役場文書は大量で、概ね半分位は終了しています。

旧役場文書はこの他にもあり、市役所にもたくさんの旧役場文書があります。この他、調査とは別に、図書館には開館して80年以上の歴史の中で目録も作られずに眠っていた史料もたくさんありますので、市史編集に役立てるべく有志たちで目録作りをしています。たとえば経師屋さんのような方が趣味で地域の古文書類を集めたものがそっくり図書館に入っている。その中には木更津の史料も入っていて写真なども多くあります。また、今年、袖ヶ浦市郷土博物館で至徳堂に関する企画展(「袖ヶ浦の寺子屋と郷学至徳堂」5月17日～7月6日)が開催されましたが、それに関連して展示品に類する史料を持っていると情報が入ってきているようなので、至徳堂関係史料がさらに増える可能性が出てきています。

金子委員長 ありがとうございます。ただいま、事務局と成田、三浦両副委員長からご報告いただきました。3つの報告事項について、質問・ご意見があればお願いします。

金子委員長 特に質問がなければ、本日の議題について事務局の説明をお願いします。

事務局(今関文化課長)

議題第1号(1)『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定についてでございますが、昨年度から委員の皆様にはご協議いただいております。大筋は出来てきております。本日は、前回にご意見いただいた点について修正しておりますので、修正点のみ小高総括より説明いたします。

事務局(小高副主幹)

それでは、ご説明いたします。下線を付けた個所が修正個所でございます。

資料 6 ページ(6)の資料の収集範囲について、「国内外から広く収集」を「市内の状況を踏まえながら広く収集」といたしました。

また、(7)の「講演会」のあとに「木更津市史編集事業公開講座」を付け加えました。

4 の『木更津市史』の内容、構成の中で、(1)アの通史編の冊数を 5 冊から 6 冊に変えました。これは前回の相山委員の意見を受け、「近現代編」を「近代編」と「現代編」に分けております。なお、イの史料編の冊数は、10 冊から 8 冊になっております。これは前回のもものが誤謬であったためです。ただし、内容は「近現代編 1・2」としてあったものを通史編と同様に「近代編」「現代編」にしております。

7 ページ上段のエで、「市史研究」のあとに「公開講座記録集」を追加しております。なお、「公開講座記録集」については、次の議題でご説明いたします。

5(2)では、「別表 2」のあとの内容を 8 のその他として別に記載し、8 には「財政状況」も加筆しました。

6(3)の「郷土研究者」の前に「学校や研究機関あるいは個人の」を付け加え、郷土研究者を具体的にしました。あわせて、7(1)の「大学や市内外の研究機関」(2)の「地域の研究団体や個人、学校などと」を「学校や研究機関」にして文言を統一するとともに、7(1)にあわせて「地域」の前に「市民の」を加筆し、「豊かな自然を再確認し、歴史を掘り起こす」としておりましたが、これは 2 の編集の目的の内容と同じになっておりましたので、「新たな市史編集事業の普及に努める」としました。私からは、以上でございます。

金子委員長 事務局より、議題第 1 号(1)として『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定について説明がありましたが、意見・質問がございましたら願います。

成田副委員長 7 ページ 6(2)の別図 1 とありますが、今回の資料には含まれていませんが、前回の市史編集委員会で示されたものですか。

事務局 (小高副主幹)

成田副委員長のご指摘のとおり、前回の編集委員会で示した資料です。

金子委員長 議題第 1 号(1)については、これまで色々意見を出していただいておりますが、見直しの意見はないようなので『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)について了承ということよろしいでしょうか。

出席委員 了承

金子委員長 それでは了承ということで、事務局は『木更津市史』編集基本構想及び基本

方針に係る事務を進めてください。

事務局（今関文化課長）

承知いたしました。

金子委員長 次に、(2)『木更津市史』通史編の刊行内容について事務局の説明をお願いします。

事務局（今関文化課長）

議題第1号(2)についてでございますが、通史編の内容に関わる修正案をご協議ください。資料8・9ページでございます。修正事項は、「近現代編」を太平洋戦争を境に「近代編」と「現代編」に分けております。「民俗編」は、他の自治体で調査した項目を参考にして再度見直しております。

それ以外については、『千葉県史』の編集内容をもとにしております。皆様のご意見をお願いいたします。なお『自然編』につきましては、昨年度の第3回市史編集委員会におきまして、成田副委員長からご提案いただきました内容をもとに、次回以降ご協議いただく予定でございます。私からは、以上でございます。

金子委員長 事務局より、議題第1号(2)の「通史編」の刊行内容について説明がございました。今の事務局案を踏まえて、委員の皆様のご意見をお願いします。

川戸委員 中世編について、これは前後の時代の方とも話さなければなりません。ここで書かれている範囲は、西暦1180年から1590年という区切りになっております。現実的にはこうなるとは思いますが、たとえば前の時代では荘園制とかの問題を考えると1180年で切るというのは問題が生じるわけで、これは後の1590年で切るかという問題もあります。この件に関しては、今後協議していく中で、多少柔軟に対応可能か確認したい。

事務局（小高副主幹）

皆様のご意見を踏まえながら見直しを図っていきたいと考えております。ただし、大筋としてどの辺りをくくりにするかご協議いただきたい。

三浦副委員長 近世編、近代編について、近世編の中に「明治維新の変革期までを」とありますが、明治維新の変革期をどの辺までと考えるのかによって書き方も変わってきます。この時期が近世なのか近代なのか、時代区分までやっていると収まりが付かなくなります。木更津市域に視点を狭めて考えて、その地域特有の時代区分でよろしいかと思います。近代編も「明治、大正、昭和（太平洋戦争まで）3編に分け」とありますが、明治をどうするのか。近世編に「明治の変革期」と書いてありますが、これは「明治」じゃないのかということになりま

す。それからもう一つ、近代編、現代編の構成が「政治、産業・経済、社会・文化、教育、市民の暮らし」とありますが、「行政」も加えたほうが良いと思います。（『図説 木更津のあゆみ』編集の場合）政治ではほとんど書けなかった気がします。市議会の様子や行政組織の変遷、市域の合併などは「行政」に含まれるのかなと思います。

事務局（小高副主幹）

皆様のご意見を踏まえながら、通史編の内容について決めていきます。

川戸委員 確認ですが、市史編集委員会の議事内容は公開されますか。

事務局（小高副主幹）

はい。

川戸委員 中世編に「農民」とありますが、若干違和感があります。「庶民」という表現ではいかがでしょうか。

事務局（小高副主幹）

通史編の内容は『千葉県史』をベースに作成しておりますので、表現のこだわりは、特にありません。

川戸委員 「庶民」や「民衆」など、農民以外の人々も含むような表現があれば良いと思います。

島立委員 「庶民」でよろしいのではないのでしょうか。

池田委員 「民衆」はもう少し下がった言葉のように思うので、「庶民」のほうが一般的に使えると思います。

金子委員長 他に意見はありますか。

「通史編」の刊行内容に関する事務局案について、再検討を要するようなので、事務局には本日の意見を踏まえて修正案の再提出を求めます。

事務局（今関文化課長）

承知いたしました。

金子委員長 次に、議題第1号(3)仮称『木更津市史研究』の編集方針について事務局の説明をお願いします。

事務局（今関文化課長）

議題第1号(3)についてでございますが、仮称『木更津市史研究』を発行するため、執筆要項の内容、刊行頻度、執筆者について提案いたします。資料の10・11ページでございます。詳細は、小高総括から説明いたします。

事務局（小高副主幹）

それでは、ご説明いたします。①の執筆要項ですが、これは八王子市史研究

執筆要項を参考にしております。仮称『木更津市史研究』を発行するにあたり、昨年度第4回の市史編集委員会で池田委員から枠組みや編集物の方針や内容を練り上げるようにとのご意見を踏まえて要項（案）を策定しました。

細かい部分については、実際に編集するとき決めていただきたいのですが、仮称『木更津市史研究』の位置づけを、今後発行する「通史編」「史料編」や、自然編の「資料編」と「本編」を編集するための基礎となるように、「論文」や「調査報告」「資料紹介」など、そして「市史編集基本構想」といった市史編集業務に係る規程などを掲載すべきか、ご意見をお願いします。

刊行頻度については、實形委員から定期刊行物にすると原稿が集まらないと大変であるといったご意見がありました。ただ、不定期刊行だと発行に係る予算措置が難しいことと、仮称『木更津市史研究』の位置づけを今後発行する「通史編」「史料編」などを編集するための基礎資料にはできなくなるので、定期的に刊行したいと考えております。

執筆者についても、編集部会委員だけなのか、あるいは市史編集委員会委員や原稿をお願いするのか、または一般公募して編集部会など中に査読会を設けて寄稿内容を検討した上で掲載するなどの方法が考えられますので、ご意見をお願いします。私からは、以上でございます。

金子委員長 事務局より、議題第1号(3)仮称『木更津市史研究』に関する事務局案について、説明がございました。この議題は①から③に分かれております。まずは①の『木更津市史研究』の執筆要項として細かく書いておりますが、この点について意見がありましたらお願いします。執筆上の注意点などもお願いします。

他に②の刊行頻度や③の執筆者についても構いません。

池田委員 執筆を依頼するとありますが、編集の主体となるのはどこなのかが明記されていないと思います。前にも議論しましたが、(編集事務は)かなり大変になると思います。例えば成田市の場合ですと教育委員会が発行になっていて、編集そのものは図書館になっています。八王子市はちょっと違っていたかと思います。その辺をどのように考えているかお聞かせください。

事務局（小高副主幹）

今後の事務については、市史編集部会を組織するときに市史編集に専従する職員の配置も考えております。

金子委員長 他に意見はございませんか。

議題第1号(3)の事務局案についてですが、今回が初めての協議ですので、事務局には本日の意見を踏まえて修正案の再提出を求めます。

事務局（今関文化課長）

承知いたしました。

金子委員長 次に議題第 2 号の公開講座の実施について、事務局の説明をお願いします。

事務局（今関文化課長）

議題第 2 号についてでございますが、先ほど報告いたしました木更津市史編集事業公開講座について、次回以降の講座内容、実施回数及び実施の時期、そして公開講座の成果を公表するため『公開講座記録集』の編集・発行について皆様のご意見をお願いします。資料の 12 ページから 14 ページでございます。詳細は、小高総括より説明いたします。

事務局（小高副主幹）

それでは、ご説明いたします。（説明前に資料訂正あり）(1)の次回以降の公開講座の内容についてでございますが、昨年度第 4 回市史編集委員会で事務局から提案した内容を部会ごとに分けました。各部会 2 ないし 3 の講座内容を事務局で考えましたので、こうした内容の講座を行うか、あるいは見直したり追加したい内容がございましたらご意見ください。

また、公開講座の実施回数および実施の時期についてでございますが、資料 14 ページ中ほどに記載しております。事務局といたしましては、さきほどの議題 1 でご協議いただきました市史編集基本構想および基本方針の中で、「広く市民に親しまれ、まちづくりや、生涯学習、学校教育等に活用」してもらうために、小・中・高校生を含めて対象として実施したいので、夏休み・冬休みにあわせたいと考えております。

従いまして、年 1 回実施の場合は 8 月か 12 月、2 回実施の場合は 8 月と 12 月、3 回実施の場合は年度末を避けまして春休み期間の 4 月になろうかと考えております。また実施する場合は、前の年度に公開講座の内容を全て検討し、翌年度に実施するようにしたほうがスムーズに事業が行えると考えております。

また、開催当日の事務や事前打合せ、公開講座の内容検討等については、市史編集部会が設置されたときは編集部会の部会員の中で協議していただき、事務局は会場の借用や広報活動といった事務的なものを行いたいと考えております。

(3)の『公開講座記録集』の編集・発行についてでございますが、公開講座は広く市民を対象とするので、内容もわかりやすいものにしたいと考えており、先ほどご協議いただいた仮称『木更津市史研究』が、主に論文等の研究者向けの内容を掲載するので区別したいと考えております。

また、発行の形態は「冊子」のみを発行するのか、または市のホームページのみ、あるいは「冊子」とホームページの両方で公開するかご意見ください。あわせて『公開講座記録集』の執筆要項を規程するののかもお願いします。私からは、以上でございます。

金子委員長 事務局より、議題第2号公開講座の実施に関する説明がございました。委員の皆様から項目順に意見を伺ってまいります。最初に次回以降の公開講座の内容について、部会ごとに分かれておりますので部会順にお願いします。

自然部会については3つほど提案されておりますがいかがでしょうか。

島立委員 次回とは、いつを想定していますか。

事務局（小高副主幹）

他の事業との兼ね合いと、次回についての内容が決まれば、今年度にもう一度実施したいと考えておりますが、公開講座の内容が決まらなければ来年度になります。また、準備時間的には、来年度のほうが皆様の意見を十分に反映できるものと思っております。

成田副委員長 第1回目の公開講座を「盤洲干潟のいきものたち」としてやりましたが、初めから懸念していたことですが、物足りないと感じた人もいれば、一方では難しくわからないといった人もおりました。これはやむを得ないことかもしれません。どういう人たちを対象とするのか、私は盤洲干潟について全く知らない人を対象にしようと考えておりました。ただ、本当にそれでよいのかどうかという点も検討していただきたい。

また、各部会3つずつ提案していただいておりますが、次回はいつになるのか、1回の公開講座で提案された部会ごとの内容を全て行うのか、それとも1回の公開講座で一つの内容を行うのか事務局の考えを伺いたい。

また自然部会の内容ですが、③は『図説 木更津のあゆみ』を編集する際には、自然班は全く関与していないので、市の職員が行うのかなども伺いたい。

事務局（小高副主幹）

先日の公開講座は、概ね2時間半位の時間で実施しました。事務局としては、この位の時間が適当と判断しております。おそらく、1回の公開講座で2つ以上の内容を行うのは難しいと考えております。

また③は、自然から見た地震などについてと、災害によって被る人的被害の両面から自然部会と近現代部会の共同実施で行えるのではということ事務局から提案しました。この点についても、実施は難しいとか他の内容があるようでしたらご意見ください。

なお、公開講座の対象ですが、公開講座の実施に当たり市史編集事業の内容や木更津市（の文化・歴史・自然）について広く市民に知っていただくことを目的に進めました。「盤洲干潟のいきものたち」では、成田副委員長からもありましたように、盤洲干潟を知らない人たちにもわかるような内容で行っていただきました。この点は、どの分野でも知らない人は多いので、そういった方にも是非木更津のことを知っていただきたいということで、この公開講座を位置付けたいと考えております。

金子委員長 民俗部会の内容はいかがでしょうか。

島立委員 ①は、私たち（中央博）が行っているものの木更津版ということでしょうかからいくらかでもやれます。③も出来るかなと思いますが、②は難しいので、一呼吸置いてからなら出来ます。ですが、3月は厳しい。①で自然と人とのかかわりですと、成田副委員長にお願いしてもいいわけですね。そういう方向でなら可能だと思います。ただ、まだ部会も立ち上がっていないので、部会単位での発表にはならないと思います。

石井委員 事務局から年1回から3回の開催とありますが、それぞれの場合で結構ですが、年1回の場合は各部会ごとが年1回ずつ開催するというものなのか、それとも違った方法をとるのか伺いたい。

事務局（小高副主幹）

各部会ごとが1回から3回ずつ開催するというのではなく、公開講座を年1回から3回開催するというので、公開講座を行わない部会も出てきます。今回は『図説 木更津のあゆみ』をもとに20ほどのテーマを提案しましたが、テーマ全てを行った場合、年に1回実施であれば20年かかり、年2回であれば、その半分の10年ということになります。皆様には、仮に提案したテーマで公開講座を実施するのであれば、その優先順位についてもご検討ください。

川戸委員 中世部会では、②③は前回も出ていましたので実現は可能かと思います。

事務局（小高副主幹）

議題第2号で説明が足りませんでした。今回提示した公開講座の内容は『図説 木更津のあゆみ』をもとに考えた事務局案なので、事務局案こだわらず、こういった内容であれば木更津という地域でやれるのではないかとといったご意見を是非ご提案いただきたい。

例えば、近現代部会なら来年が終戦から70年という節目になり、今年であれば木更津港発展の契機となった大阪冬の陣から400年ということで、郷土博物館金のすずでも江戸時代の港にかかわる企画展を計画しているように、年ご

とで話題になるものを行いたいといったご意見をいただきたい。あるいは、大河ドラマと同じ時代の木更津に関するテーマで行いたいといったご意見でも構いませんので、よろしくお願いします。

金子委員長 議題第2号(1)の公開講座の内容についてですが、まだ、この後も意見があるかもしれませんが、事務局は本日の意見を踏まえて改めて検討してください。

事務局（今関文化課長）

承知いたしました。公開講座ということで、今後各部会で調査・研究を進められていきますが、その成果を市民にいち早く公開していきたい。また木更津市史編集事業として、木更津市の再発見につながればと思っておりますのでよろしくお願いします。

金子委員長 (2)の実施回数および時期についてのご意見がいかがでしょうか。事務局は何か補足説明がありますか。

事務局（今関文化課長）

事務局としては、軌道にのれば年2回の開催を考えております。ただし、軌道にのるまでは、当面、年1回で行うよう柔軟に考えております。できれば年2回開催したいのですが、それが負担になるようであれば本末転倒になるので、その点は協議しながら進めたいと考えております。

金子委員長 事務局としては、年2回開催ということですね。

もう1点。(3)の公開講座記録集についてですが、お気づきの点がありましたらお願いします。

池田委員 順番として、編集部会が立ち上がらないと中々決めがたいところがあるのかなど、これまでの議論の中で感じましたし、公開講座に携わる人たちの負担になってはいけないと思います。そして内容に関しても、例えば博物館や、木更津に限らず千葉県生物多様性センターなどと連携したときは上級者向けの内容もできるけれども、一般の市民の方々に対しては入門編のように住み分けも出来ていくのではないかと思います。

そうやって考えると、市史編集事業で行う公開講座に何が一番ふさわしいのかということも、他の機関で行われる講座と住み分けが重要になるのかなと思います。一般論として、市がどういった資料を持っているのか、その意味は何かというような、市史編集に密着した話が聞けると市史編集事業で行う公開講座に一番いいのかなと思います。

金子委員長 事務局は、本日の意見を踏まえて改めて検討してください。

事務局（今関文化課長）

承知しました。

金子委員長 本日最後の議題ですが、議題第3号の木更津市史編集部会設置について事務局の説明をお願いします。

事務局（今関文化課長）

議題第3号についてでございますが、前回の市史編集委員会におきまして8つの部会を設置することとなりましたが、設置にあたり具体的な規程を設ける必要がございます。つきましては、部会設置に関する規定、部会委員の選定についてご意見をいただきたいと存じます。資料の15・16ページでございます。詳細は、小高総括より説明いたします。

事務局（小高副主幹）

それでは、ご説明いたします。(1)の市史編集部会設置に関する規定でございますが、八王子市の市史編集専門部会設置要綱を参照しております。規程の中で不用な部分があるか、あるいは追加したい点があるかご意見ください。

この中で市史編集部会の構成員に新たに加えているのは、2の第4項に規程しております「特定部会委員」でございます。

これは、調査・研究・執筆は基本的に部会委員が行いますが、資料の分析などといった市史編集業務を継続して行うのではなく、必要に応じて大学や研究機関等に所属する専門的な方に調査や執筆などを依頼することを想定して、特定部会委員としました。

また、市民協働については、個別に規程を設けるのではなく、部会の補助作業を行っていただく立場から部会の規程の中に含めました。

続きまして、16ページの候補者の選定でございますが、前回の委員会の中で楢山委員から木更津図書館の郷土資料室などにある本を調べて研究者を捜してはとご意見をいただいておりますので、こうした作業を行う必要もございますが、あわせて市史編集委員会委員の方々や大学・研究機関や地域の研究会などに対して、依頼または推薦をしていただきたいと考えております。

また部会の人数についても、制限を設けるかあるいは特に定めないか。委嘱期間についても、現在は1年間ですが市史編集委員会委員の任期が2年であり、市史編集委員会と同様2年にすることが考えられます。仮に2年にした場合、事務局の事務負担軽減を図ることができます。

以上の事項についてご意見ください。私からは、以上でございます。

金子委員長 事務局より議題第3号の木更津市史編集部会の設置に関する説明がございました。項目順に意見を伺ってまいります。最初に編集部会に関する規定ですが、

事務局案に付け足す項目あるいは見直しなどのご意見があればお願いします。

川戸委員 「部会委員」「部会員」「特定部会委員」「市史編集協力員」とありますが、それぞれ別の役割があると理解してよろしいですか。

事務局（小高副主幹）

「部会委員」「部会員」は名称を統一します。また、それぞれ別の役割を考えております。「特定部会委員」は、先ほど説明したように資料の分析など必要に応じて専門的な方に調査や執筆の依頼することを想定して設けましたが、必要かどうかご意見ください。（※「市史編集協力員」は、今年度第1回木更津市史編集委員会資料の市史編集組織（案）に記載する「市史調査協力員」に訂正。）

島立委員 市史編集協力員（市史調査協力員）の具体的なイメージとして、いくつかの市町村史に関わってきましたが、民俗調査で市民の方々に一緒に入っていただき、最終的に調査に参加した人たちの目線で報告書を書いてもらった経験があります。民俗編としてはうまくいったと思っていますが、そういったイメージが一つあります。もう一つは、原稿執筆の際、アンケート調査するときに調査員に集まっていただいて、知っている方を推薦や紹介していただきました。そういったことでしょうか。

事務局（小高副主幹）

市史編集協力員（市史調査協力員）は、今年度第1回の市史編集委員会で市史調査ボランティアから名称変更したもので、木更津市史編集基本構想及び基本方針（案）の中の7. 市民協働に該当しますが、どのような作業を行っていたかかは決まっておられません。

島立委員 市史編集協力員（市史調査協力員）の項目は残しておいて、自然部会や民俗部会、近世部会など地元の方々の協力は大事なので、実際に運用するときのために名前を残しておけばいいと思います。

事務局（今関文化課長）

木更津市史編集部会設置に関する規定（案）の中では、「できる」規定にしておりますので、調査を進めていく上で必要があれば市史編集協力員（市史調査協力員）を置くことができるとご理解ください。

池田委員 今の事務局の説明で納得しました。

石井委員 部会委員の総数はどのくらいになるのか、あるいはボランティアに対する報酬や旅費等の経費について負担するのかどうか教えていただきたい。

事務局（小高副主幹）

8部会を設置し、各部会10人の部会委員がいれば80人になりますが、必ず

一律の人数になるとは限っておりません。ボランティアとしての市史編集協力員（市史調査協力員）は、部会ごとで何人と決めることは考えておりません。また経費の負担については、他の自治体を参考に考えます。

事務局（今関文化課長）

第1回の市史編集委員会の資料に市史編集組織図を掲載しておりますが、その中で各部会に数名～10名ほどと記載しておりますのでご理解ください。

堀切委員 7の市史編集協力員（市史調査協力員）は、ボランティア的なスタンスで市民協働の視点だということでしたが、この選任はだれが行うのか明確ではありません。これは、市史編集部会長が選任するということでしょうか。先ほども余りきっちり決めてしまうと動きが制約されてしまうので、ある程度動ける形にしたほうがよいでしょうといった意見もあったのですが、あるいは公募などをしてそれぞれの部会に当てはめるといったイメージでしょうか。

事務局（小高副主幹）

事務局としては、登録された協力員をそれぞれ部会ごとに振り分けるということではなく、例えばこの期間はこの部会に関わる調査を行うので、調査協力可能であればお願いするといった方法を考えております。選任についてはボランティア保険への加入は必要なので、事務局が行う予定です。

また、登録された協力員の中で、各部会長から協力員を指名するのは構わないと考えております。（公募については未回答）

金子委員長 規程の中であいまいな個所がありましたらご意見ください。他に意見はございませんか。

意見はないようなので、木更津市史編集部会設置に関する規定（案）について、事務局は今の意見を踏まえてさらに検討してください。

次の部会委員の候補者についてですが、選定方法などは前回の市史編集委員会で眉山委員から意見がありましたように、図書館などの郷土資料などを調べて候補者を捜す方法もありますが、事務局案では市史編集委員会委員の皆様や、大学・研究機関から捜す方法もあるということでしょうか、この点についてはどうでしょうか。また、部会委員の人数についても、小数精鋭で行くのか、市史編集事業が長期の事業なので多くするのか。また、これまで委員の皆様が事務局から部会委員候補者の紹介についても話がでておりましたので、候補者がいるようでしたら、名前を挙げていただくというのも必要なのではと考えますが、皆様のご意見はいかがでしょうか。

川戸委員 二つ質問があります。一つは部会長の人選は市史編集委員会委員が行うのかと

いう点と、委嘱期間が1年か2年ということですが、事務局としては1年か2年かのメリット、デメリットはありますか。

事務局（小高副主幹）

現在、市史調査・研究を依頼している期間は1年ということで年度当初に更新し、更新時期には、その都度事務手続きを行っております。今後は、各部会の委員の委嘱に当たり、毎回行うこととなります。当然、委嘱期間中に本人の都合により辞退される方も出てくることが考えられ、その場合の後任を選任する、しないということも決めなければなりません。必ず年度末で切り替えられるかどうかは定かではありません。こういった点を考えると、委嘱期間を1年とした場合、調査・研究にかかる事務の煩雑化も大きくなっていくかと思えます。2年の場合は、市史編集委員会委員の委嘱期間も2年ではありますが、委嘱開始期間が必ずしも同じ日付けから始まるわけではありませんので、事務手続きも別に考えなければなりません。今のところメリット、デメリットを上げるとすれば、1年ごとの更新よりは、2年ごとの更新手続きのほうが事務的負担も多少軽減されるというところです。

川戸委員　　私は、2年を推薦します。もう一点、部会長の人選は、具体的にどのようにするのかをお願いします。

事務局（小高副主幹）

前回の市史編集委員会の中で、市史編集委員会委員と部会委員との兼務を認めないという事項は削除しました。ただ、市史編集事業を進める中で市史編集委員会委員と部会長による会議の実施を検討しておりますが、実形委員のご指摘をうけ市史編集委員会委員が部会長を兼務するのは避けたいと考えております。（人選方法は未回答）

島立委員　　部会委員の委嘱期間は2年がよいと思います。情報提供ですが、今、野田市の仕事を手伝っておりますが、野田市では委嘱した後、本人が辞退するまで更新手続きはありません。もう一点、部会長の選任ですが、部会長が誰になるのかによって一緒に働く部会委員も変わってくると思います。なので、部会長を先に選任したほうがよいと思います。選任ではなく当てをつけるということが必要です。

成田副委員長　今まで出た意見でよろしいのかなと思います。市史編集協力員（市史調査協力員）についてもかなり話題になりましたが、これは各部会での運営の仕方について融通が利かせられるようになっているかと解釈しております。長期間にわたって市史編集協力員（市史調査協力員）の中心になって協力していただけ

る方もおられるでしょうし、一時的に調査協力してくれる方もいると思います。

先の話になりますが、市史編集室というのは、どこに設置することを検討されていますか。

事務局（今関文化課長）

まだ未定です。はじめに組織を作ってからになります。他の自治体の状況を伺うと、図書館や博物館の一室にある場合があります。木更津市では図書館や博物館は狭隘なところがございます、そこでの設置は難しいと考えております。

確かに、場所がないと調査資料を保管することもできませんし、作業工程に支障をきたすこともありますので、その点も踏まえて考えていきます。

金子委員長 委員の方々から貴重なご意見をいただいておりますが、各委員の意見も本日のところは出尽くした感がございます。事務局から、その他として何かございますか。

事務局（今関文化課長）

特にございません。

金子委員長 それでは、本日の審議についてこの辺りで終了いたします。事務局は、本日の意見を整理し、次回の市史編集委員会の議題内容の検討をお願いします。本日の議事は以上で終了となりますので、議長の職を解かせていただきます。ありがとうございました。

事務局（今関文化課長）

金子委員長、ありがとうございました。以上を持ちまして、今年度第2回木更津市史編集委員会を終了させていただきます。なお、次回の市史編集委員会の開催は、10・11月頃を予定しております。開催日が決まり次第、ご案内させていただきますのでよろしくをお願いします。委員の皆様方には長時間にわたりご審議をいただきました。これをもちまして、本日の委員会を終了いたします。ありがとうございました。

平成26年8月5日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 金子馨